明細書を職員が各自パソコンで確認する「職員給与システム」、さらには、子育て環境の向上と保護者の利便性・職員の負担軽減を目指す「保育ICTシステム『コドモン』を導入し、多角的な視点でデジタル化を着実に進めている。

道路の全面舗装と街灯問題について　藤瀬　都子

議員　昭和52年に高砂団地として誕生してから50年の歳月が過ぎた。現在では、170戸になっている。50年生活してみれば道路の痛みもあちこちあり、補修箇所が増えてくるのは当然である。

①　地区別に道路の全面舗装に取り組む計画があって、それに準じているならば高砂区は何年に舗装に値するのか答弁をお願いしたい。

なぜなら他の地区で、そんなに痛んでいないのに舗装された所もあるからである。そのことを考えれば年次的に計画通りに実行されているとしか考えられないからである。

②　街灯について伺う。昼間に何日も電気がついていたり、夜間に消えている箇所もある。

特に夜間街灯が消えていることは、防犯上問題であるため早急に対応すべきだ。

町内放送や回覧などで住民に呼びかけ情報提供の協力を得る方法等、検討をお願いしたい。

農林建設課長　①　町道については、73路線で総延長が約52・5㎞ある。道路の全面舗装については、平成26年度に車両に搭載した測定器により「ひび割れ率」、「わだち掘れ量（横断）」、「平坦性（縦断）」を計測し、算出した維持管理指数により町道の路面の傷み具合を調査し、舗装の優先度を定めた「道路整備舗装計画」を策定し、原則この計画に基づき、路線毎の全面舗装を行っている。

高砂団地内線については、高砂線より優先度の高い路線も多くあり、交付金や起債のつき具合や工事費の増加などもあり、工事年度をお伝えすることは困難である。

②　街灯が適切に稼働していない理由に、本体が故障していたり、電球が切れている場合がある。特に多いのが点灯の切り替えを行う自動点滅器が故障している場合で、この3つのケースが考えられる。

道路パトロール以外にも、町民からの協力も必要であるため、区長会での依頼や町報等の活用を検討する。

堤に設置されている救命器具について

議員　町内にある堤には、「ロープ付き救命器具と竿」が設置されているが、約10数年経つと思う。設置後は、巡回もかねて点検が行われていたようだが、現在は、手が届いていないようで不備な箇所が見られる。

▲各ため池に設置されている救命用具

学校では、プール授業も行われていると思うが、夏休み期間中は、水泳は行わないとなると水ぬるむ季節に学んだ水泳に興味が出て、水を求めて堤に向かわないとも限らない。

充分注意指導は行われると思うが、万一のことを考え救命器具の点検は必要であると思う。せっかく取り組んだことだから年に一回は、点検と草払いを兼ねて見回りの検討をお願いしたい。

教育委員会事務局長　救命用具についてはPTAや大町町青少年育成町民会議が中心となって設置されたと承知しており、荒橋ため池を除く17のため池に、アルミパイプロープ・ポリタンクを1セットとした救命用具が備えつけられている。

毎年、点検後に「ため池救命用具点検調査報告書」を作成され、点検内容や交換した器具が記してある。

加えて、学校では、一人で川や堤で遊ばないこと、特に雨が降った際には川に近づかない事等、未然防止の視点から指導している。水泳の授業の終わりには、着衣水泳を通して、水に落ちた時の適切な対処法等を、指導している。子供たちへの安全指導と、毎年欠かさず救命用具の点検及び環境の整備は実施されている。

ひじり学園の子供たち作品募集に挑戦を！

議員　某新聞に、子ども川柳「青春5・7・GO！」の募集を見た。子どもたちの感性を活かす訓練にもなるし、いろんな作品募集に挑戦させることは、自分を磨くために大切ではないだろうか。他にも、俳句・短歌・詩・書道・図画などいろんなところで募集があるので紹介して積極的に取り組む挑戦をさせてみてはどうか。文章を練る訓練になるし、図書室を利用する機会も増えると思う。友達間では作品の話題が生まれ、親子の会話も多くなる。

まずは、作品募集へどんどん挑戦させるべきだと思うが。